
とある日の出来事 タケシ編

Mハゲ様

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある日の出来事 タケシ編

【Nコード】

N 8 7 1 9 Q

【作者名】

M 八ゲ様

【あらすじ】

サトシ・ヒカリと旅をしている中、急に巨大化してしまったタケシ。
何故巨大化してしまったのか？
元に戻るには？

新しい旅の幕開け…！

大きい事は良い事…でもないぞ？（前書き）

完全なる作者の趣味です。

タケシがおつきくなる、だいたいそれだけ！
↑

大きい事は良い事…でもないぞ？

急に目が覚めた。

身体に冷たい風を感じる。

洞窟の入り口からだろうか。

寝ぼけ眼を擦り、身体を起こす。

何故か全身に砂をかけたようになっていた。

ここでふとある事に気がついた。

ここは洞窟の中じゃない…？

昨晚眠りについた場所は、確かに洞窟の中だった。

おまけに、一緒に寝ていたサトシとヒカリも居ない。

立ち上がり、辺りを見回す。

10cm程の植物が辺りを埋め尽くしていた。

こんな場所は見たことがない。

寝ている間に誰かに移動させられたのか？

それなら何の為に…。

一本踏み出す。

小さな植物は、ぱきぱきと音をたてて簡単に潰れてしまった。
随分と脆いようだ。

その植物を観察しようと、顔を近付ける。

驚くべき事に、それはどう見ても木だった。

大木をそのまま小さくしたような植物…。

もしかすると、これは本当に木なんじゃないのか？

もしそうだと、自分は今どうなっているのか。

途方も無い程に巨大な巨人と化しているともいうのか？

…そんな馬鹿な話、有り得ない。

改めてその植物をよく見てみようと思えたその時だった。
植物の陰に何かが居る。
自分の見間違いでなければ…それは確かに…

サトシとヒカリだった。

理解出来ない。

状況を把握出来ない。

どういう事なんだ？

本当に巨大化してしまったのか？

これは夢か幻？

現実じゃ…ない…だろ？

『タケシーツ！ここだ！おい！！！』

サトシが呼んでいる…。

本当に…本当に俺は…。

『サ…サトシ？ヒカリ？』

『タケシ！やつと気付いてくれたのか！』

『な、何でそんなにおつきくなっちゃったのよ！』

『俺に聞かれてもなあ…。…こんなの信じられないよ』

ああ、これは現実なのか。

俺は急に巨大化した。

言うだけなら簡単に理解できるのだが、現実となると話は違つ。

何としても、元に戻らなくては。

よくよく考えれば、このままではおねえさんにアプローチも出来ないじゃないか！

そんな訳にはいかない。

「…………絶対に戻るぞ…………」

「へっ？」

「えっ？」

かくして、巨大化の原因を探り、元の大きさに戻るべく旅を再開したのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8719q/>

とある日の出来事 タケシ編

2011年2月13日19時56分発行